

校正見本 — 高校「情報Ⅰ」教材の紙面を想定して

★これは架空の題材で作成した見本です。実在の教材・出版物とは関係がありません。

実際にお受けした案件の成果物は、いずれも秘密保持契約の対象のためお見せできませんので、

どのような指摘を入れるかをご確認いただくために、こちらを作成いたしました。

神田 泰志／2026 年 10 月 17 日

この見本の読み方

高校生向けの「情報Ⅰ」教材の本文（約 600 字）を想定し、**意図的に誤りを含めた紙面**を用意しました。

そのうえで、実際の校正と同じ手順で指摘を入れています。

★指摘には必ず「なぜ直すのか」を添えています。

赤字だけをお返しすると、執筆者の方が判断できず差し戻しが増えるためです。

直す／直さないを決めるのは執筆者と編集者ですので、こちらは**判断の材料**をお出しする形を取っています。

観点は 5 つです。① 誤字脱字 ② 表記のゆれ ③ 事実・用語 ④ 体裁・組版 ⑤ 読者に伝わるか

1. 紙面（校正前）

第 3 章 アルゴリズムとプログラミング

3-2 データを探す — 線形探索と二分探索

- 1 コンピュータにデータを探させる方法には、いくつかの種類がある。ここでは代表的な
- 2 二つの方法、線形探索と二分探索を取り上げる。
- 3 線形探索は、データを先頭から順に一つずつ調べていく方法である。データの個数が
- 4 n 個のとき、目的のデータが見つかるまでに平均して $n/2$ 回、最大で n 回の比較が必要
- 5 になる。仕組みが単純なため、プログラム言語を問わず実装しやすいという利点がある。
- 6 一方、二分探索は、調べる範囲を半分ずつ狭めていく方法である。まず範囲の中央にある
- 7 データと目的の値を比較し、目的の値のほうが大きければ後半を、小さければ前半を次の
- 8 範囲とする。この操作を繰り返すことで、最大でも $\log_2 n$ 回程度の比較で済む。
- 9 たとえばデータが 1000 個ある場合、線形探索では最大 1000 回の比較が必要だが、
- 10 二分探索ではおよそ 20 回で済む。
- 11 ただし二分探索には注意すべき点がある。データがあらかじめ小さい順に並んでいなくて
- 12 も使えるという点である。並んでいない場合は、先に並べ替え（ソート）を行う必要がある。
- 13 図 3-2 は、二分探索の手順を表したフローチャートである。くわしい動作は図 3-1 で確認
- 14 してほしい。
- 15 なお、コンピューターの処理速度が速くなった現在でも、扱うデータの件数が増えると
- 16 探索方法の違いは実行時間に大きく影響する。適切な方法を選ぶことが重要である。

2. 指摘一覧（10件）

No・行	種類	指摘（→ 修正案）	なぜ直すのか
1／3行	① 誤字脱字	「調べてていく」→「調べていく」	「て」の重複（衍字）です。音読すると気づきにくく、黙読でも飛ばしやすい位置にあります
2／11～12行	●③ 事実・用語	「データがあらかじめ小さい順に並んでいなくても使えるという点である」→「データがあらかじめ小さい順に並んでいる必要があるという点である」	● 内容が逆です 。二分探索は整列済みであることが前提です。しかも直後の「並んでいない場合は、先に並べ替えを行う必要がある」と矛盾しており、読者はどちらが正しいか判断できません。★この紙面でいちばん重い誤りです
3／10行	●③ 事実・用語	「二分探索ではおよそ20回で済む」→「およそ10回で済む」	● 計算が合いません 。 $\log_2 1000 \div 9.97$ なので約10回です。20回は $2^{20} \div$ 約100万件に対応する数字で、 1000件の例と桁が合いません 。★演習問題や図版で同じ数字を使っていないか、あわせてご確認ください
4／13～14行	●③ 事実・用語（図版の参照）	「図3-2は、二分探索の手順を表した…くわしい動作は図3-1で確認してほしい」→参照先の番号をご確認ください	● 同じ段落で図3-2を説明しながら、図3-1を見るよう指示しています 。どちらかが誤りです。★図版番号の食い違いは、紙面が差し替わったときに起こりやすいので、図版一覧と照合することをおすすめします
5／5行	② 表記のゆれ	「プログラム言語」→「プログラミング言語」	章題が「アルゴリズムとプログラミング」であり、用語としても「プログラミング言語」が一般的です。★ 章題と本文で語がずれると、索引・用語集の作成時に揺れが残ります
6／1行・15行	② 表記のゆれ	1行「コンピュータ」／15行「コンピューター」→どちらかに統一	同一紙面で長音符の有無が割れています。★ 教材は表記統一が評価に直結しますので、同じ章に両方があるのは避けたいところ です（他章の表記にそろえるのが安全です）
7／2行・9行	② 表記のゆれ	2行「二つの方法」／9行「1000個」→数字の表記方針をご確認ください	漢数字と算用数字が混在しています。★一般には「数えられる数は算用数字／慣用表現は漢数字」で分けますが、 出版社様の表記ルールが優先 です。方針をいただければそちらにそろえます
8／12行	④ 体裁・組版	「（ソート）」→「（ソート）」	開き括弧が全角、閉じ括弧が半角です。★ 印刷すると字間が不自然に詰まる箇所 で、紙面では目立ちます
9／8行	④ 体裁・組版	「log2 n」→「log ₂ n」（2は下付き）	底の2は下付きで組むのが通例です。★このままでは「log2」という関数名に読めてしまいます。 変数 n の書体（立体／

			斜体）の指定もあわせてご確認ください (4 行の n も同様です)
10／8 行	⑤ 読者に伝わるか	「log2 n 回程度」→ 注または言い換えのご検討をおすすめします	「情報Ⅰ」は1年次での履修が多く、 対数は数学Ⅱの範囲 です。初出で説明なく使うと読者が止まります。 ★9～10 行に具体例（1000 件→約 10 回）があるのは良い流れ ですので、「何回半分にできるか」という言い換えを先に置くと、無理なくつながります

3. 全体についての所見（2 点）

1. いちばん重いのは、11～12 行の「並んでいなくても使える」です。

ここは**事実が逆**であるうえ、**直後の一文と矛盾**しています。誤字や表記ゆれは読者を少し止めるだけですが、**この一文は読者に誤った知識を残します**。先に直すべき箇所として、優先順位を上げてご報告しました。

2. 数字は、紙面の外とも突き合わせる必要があります。

10 行の「20 回」は、**図版・演習問題・解答にも同じ数字が出ている可能性**があります。

★本文だけ直すと、**紙面と解答が食い違う**という形で残ります。

関連箇所の一覧をあわせてお出しすることができますので、必要でしたらお申しつけください。

4. 作業の進め方について

赤字の形式	紙（校正記号）／PDF への注釈／Word のコメント・変更履歴 のいずれにも対応できます。御社のご指定に合わせます
お出しするもの	赤字そのものに加えて、 上記のような「指摘の一覧」 をお付けできます（★差し戻しのやり取りを減らすためです）
判断に迷った箇所	勝手に直さず、必ず「ご確認ください」の形でお戻し します。事実関係・表記ルール・紙面の都合は、執筆者と編集者のご判断が優先と考えております
お引き受けの前に	ページ数・紙面見本・納期をいただければ、 お受けできるかを早めにご返答 いたします

★繰り返になりますが、**この紙面は架空の題材**です。

実在の教材・出版物、および過去にお受けした案件とは一切関係がありません。